



立川の農業、 地産地消の取り組み 稻橋 ゆみ子

立川産野菜などの販売所としての立川駅南口「みどりっこ」が閉鎖され、北口直売所は3月末で閉鎖されます。私は、生産者と消費者の顔の見える関係ができ、立川の特性を活かした人気の直売所の継続を求めてきました。

昨年、砂川地区にオープンした「ファーマーズセンター」は立川産生産物販売の拠点として位置づけられましたが、立川駅周辺や立川駅南側からの利用者にとって、距離があり、日常的な利用は難しいとの声を聞いています。

生産者と消費者がともに

「つくる」「食べる」「活用する」

農地は、食料の問題だけでなく、災害時避難場所や地下水やみどりの確保といった環境面でも重要な場所です。都市農業を継続していくために、学校給食への立川産野菜等の活用を求めてきました。また、生産者と消費者をつなぐ小規模な直売所を市内に点在させて、立川市全体で「地産地消」の取り組みを高めることも重要です。さらに、立川産野菜を特産品として商品価値をあげ、市内飲食店での活用も広げていくことも必要です。

今後も野菜・果樹・植木・畜産などの生産者と消費者が一緒になって、立川の農業を継続し、発展できるまちづくりを進めていきます。

<生活者ネットワーク 3つのルール>

- ①議員はローテーション：議員は最長3期12年で他の人に代わります。誰でもが議員になることで議員を職業化・特権化しません。ローテーション後は、地域の活動の中で経験を活かします。
- ②議員報酬は市民の活動資金に：議員報酬は市民の政治活動資金として使います。お金の流れはすべて公開します。
- ③選挙はすべて手づくり：選挙は市民のカンパとボランティアで行います。



振込先：青梅信用金庫 玉川上水支店
立川生活者ネットワーク 富永文子
口座番号：0261491



「福島の子ども」 保養プロジェクトの活動 谷山きょう子

2012年5月、市民の有志が集まり、福島の親子を立川へ招待するための「福島と立川の子どもたちの会」を立ち上げました。そして、心身共にリフレッシュするための保養「すまいる×すまいるプロジェクト」を開催しました。2013年は7月27日(土)～30日(火)に、原発事故により、外遊びや運動に制約を受けている福島の子どもを対象に、親子連れも含め総勢53名が多摩動物公園や国立昭和記念公園で楽しく過ごすことができました。趣旨に賛同した約100名の方が、ボランティアや寄附で協力してくださいました。

すべての子どもたちに明るい未来を

3.11の震災から3年が過ぎようとしていますが、福島では、東京よりも高い放射線量の地域で暮らしている子どもたちや、不安や心配を抱えながら暮らす親子が今もいることを忘れてはいけないと考えます。保養の参加者からは「除染はまだ始まったばかりで、公園はまだ除染が終わっていない」「学校では、外の授業は時間を区切って行っている。時間を気にせず遊べて、子どもの笑顔が見られてよかった」「子どもの心身の健康が心配」などの声を聞きました。

3人の子育て中の母親として、他人事ではありません。すべての子どもたちの幸せを願い、市民、行政や事業者の協力体制をさらに広げながら、この活動を継続していきます。

募集中！
「サポーター」
レポートの配布できる、
集会ポスターを貼れるなど
ともに活動できる方連絡ください。